



日東テクノブレーンのDX戦略

- 2025年 4月 -

SENKO Group



当社はそのMissionを、
「ITソリューション・ビジネスプロセスアウトソーシング・システムインテグレーションというITサービス
によって、お客さま・地域・グループ各社の発展と、それらに係わる人たちの幸せに貢献します」
と定めています。

世界規模での技術・社会・環境の大きな変化を背景に、あらゆる業種でデジタルトランスフォーメーション(DX)が急速かつ加速をつけて進んでいる中、当社は、埼玉県や首都圏の大小さまざまなお客さま、センコーグループ各社のみなさまを中心に、各社の課題解決・業務変革をITでサポートし発展に貢献することが使命です。

大企業における基幹系システムのマイグレーション、大小あらゆる業種・業態での業務・販売・営業・財務・人事など各分野のアウトソースやSI化など、当社の向き合うビジネスニーズはますます多様化・複雑化・高度化し続けており、当社は、今まで培った信頼・信用やお客さま視点の姿勢を礎としつつ、常に新技術や運用手法の調査研究と知見の研鑽を重ね、お客さま企業のめざす方向と求めるペースにあわせたIT化そしてDX化を並走・伴走できる存在であることが求められています。

そのために必要となる人財育成制度の拡充と活用、社内BPRによる自社DX化の実践、新デジタル技術動向のR&D推進などを通じ、自らが率先してデジタルによる変革を進めることにより「お客さまと社会のより良い未来創造」への貢献を続けてまいります。

代表取締役社長 新井 正明

目次

1. 当社がめざす姿
2. 当社のDX戦略
3. 取組み事例① ―業務改善事例―
4. 取組み事例② ―データ活用事例―
5. DX人財育成
6. ITシステム・デジタル技術活用環境の整備
7. DX推進体制
8. 成果指標



1. 当社がめざす姿

あらゆる業態でビジネス環境が急速かつ加速して変化しています
そのような環境を踏まえて当社は、お客さまがめざす方向と求めるペースにあわせたIT化、DX化をサポートします

【Mission（当社の使命）】

ITS・BPO・SI*というITサービスによって、
お客さま・地域・グループ各社の発展とそれらに係わる人たちの幸せに貢献します

*: ITS = IT Solution 、BPO = Business Process Outsourcing、SI = System Integration

日東テクノブレーン

3つのITサービスによる価値提供

ITソリューション

お客さまの情報システム部門の要件定義・運用設計・システム開発・運用等を弊社IT技術者の専門スキル提供や受託でサポートします

ビジネスプロセスアウトソーシング

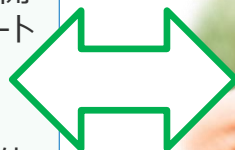
入力・仕分け等作業事務から業務プロセス全体を受託しITを使って高度化するなど、ワンストップのアウトソーシングを実現します

システムインテグレーション

お客さまの課題解決にデジタル技術を使ったソリューションを提案し、構築～保守までをサポートします

お客さま・地域・グループ各社の発展

それらに係わる人たちの幸せ



2. 当社のDX戦略

デジタル技術の調査研究と活用および人財育成を基盤にお客さまサービスでの業務改善を進め、さらにデータに基づいたサービス変革を図ることで、新たなビジネスモデルの創造や既存ビジネスでのお客さまへの提供価値の向上を目指します

DXの狙い

1

デジタル技術の活用による
品質および生産性の向上

2

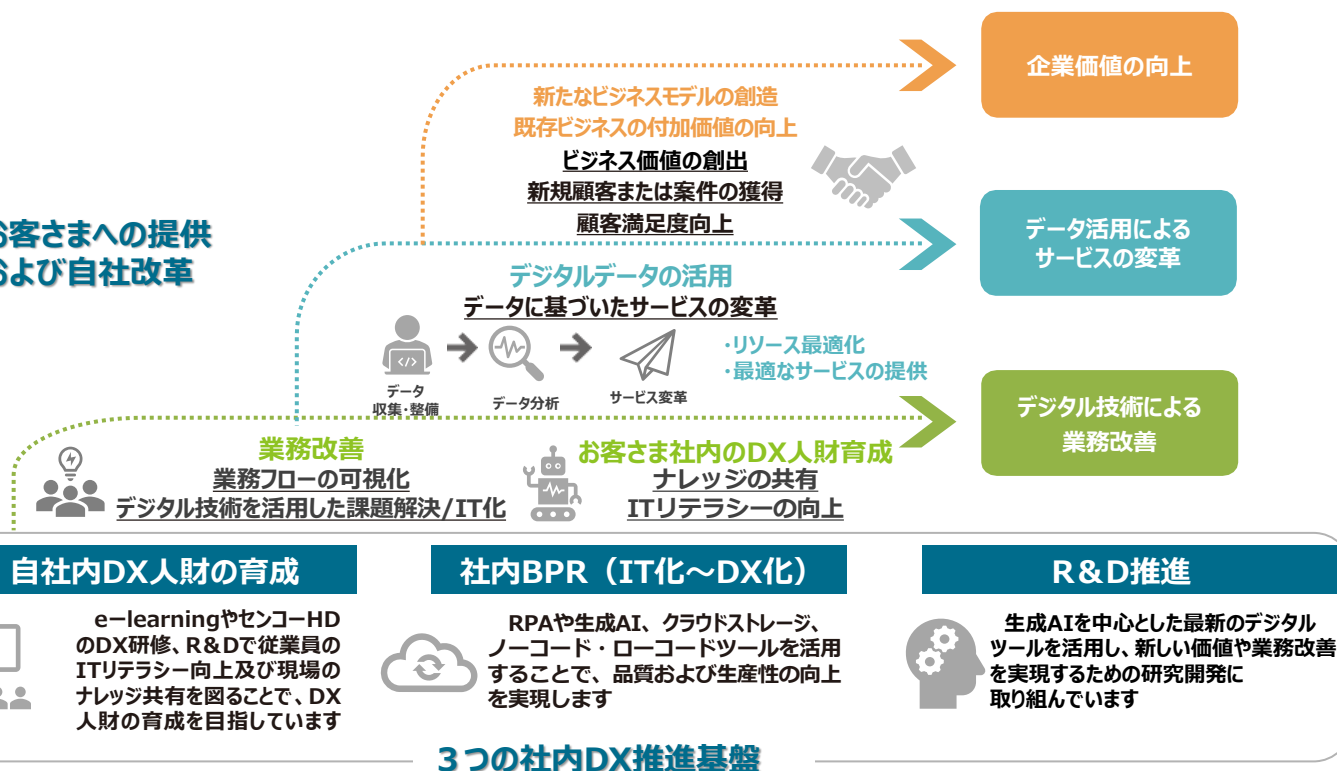
デジタルデータの活用による
サービス競争力の強化

3

新たなビジネス価値の創造と
既存ビジネスの付加価値の向上
により、お客さまへ貢献

DX戦略と 取り組み

お客さまへの提供
および自社改革



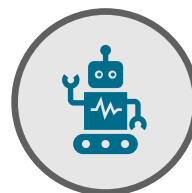
3. 取り組み事例① ―業務改善―

業務改善の具体的な取り組みについて、一部をご紹介します

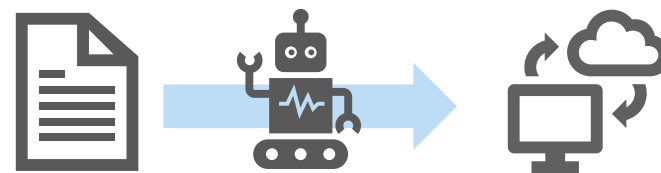


安全と利便の クラウドストレージサービス

データ入力・加工などの業務にて、従来のメールによるやり取りでは、最新データの検索に手間がかかるだけでなく、メールデータの傍受やローカルファイルとして残存することによるセキュリティリスクがありました。この課題に対し、双方がアップロード可能なクラウドストレージサービスを導入することで、セキュリティと運用効率の両面を向上させました。さらに、アクセスログの記録やバージョン管理機能により、監査性の確保と誤送信防止を実現しています。これにより、より安全かつ効率的なデータのやり取りが可能となりました。



RPAによる 業務の効率化



専用システムへのデータアップロードや日次のデータ保管業務など、定型で繰り返し発生する作業をRPAで自動化しました。

RPAが自動で作業を行うため、担当者はその時間を他業務に充てることができ、全体の業務効率が向上しました。また、人手による操作ミスや作業漏れといったリスクも防止でき、作業品質が安定しています。日次データ保管業務では、月間で最大約20時間の工数削減することができました。

4. 取り組み事例② – データ活用事例 –

データ活用についての具体的な取り組みについて、一部をご紹介します



データ活用

ローコードツールなどを活用し、データの収集・蓄積・可視化を支える基盤を整備しております。この基盤を活かし、部門横断の情報活用や、業務判断への反映を一層推進し、データドリブンな業務運営の実現を目指しています。

お客さま業務においてもデータを活用し迅速かつ確かな意思決定を支援できるよう努めています。

ここでは、「工数アプリ」と「採用管理アプリ」をご紹介します。



工数管理アプリ

「工数管理アプリを活用したリソースの可視化と最適化」の全社展開を進めています。各プロジェクトや業務における人的リソースの可視化を図り、業務負荷の偏りや非効率を把握することで、適切なリソース配分と作業計画の見直しを通じて生産性向上とリソース最適化を推進することで、より多くのお客さまの課題解決に尽力しています。



採用管理アプリ

採用業務において、採用管理アプリを活用することで、常にデータに基づいた判断と迅速な打ち手の実行を両立し、採用率の向上を実現しました。それにより多くの採用ニーズのご要望にお応えしています。

・応募傾向を「見える化」

応募状況を定期的に集計し、属性別の傾向や変化を把握。動向に合わせてアプローチを見直し、柔軟に対応しています。

・媒体・クリエイティブの最適化

閲覧状況や応募数などの反響データをもとに、表現内容や発信タイミングを適宜見直し。効果的な表現を特定し、定量的な振り返りで継続的に精度を高めています。

・PDCAサイクルの高速化

集計結果を定例ミーティングで即座にレビューし、改善点を迅速に特定。データを根拠に客観的な改善策をスピーディに検討・実行できる体制を整え、短期間でPDCAサイクルを回しています。

5.DX人材育成

当社では、従業員のITリテラシー向上や、ナレッジの共有に取り組み、
事業・業務に精通し、デジタル技術を活用した新しい提供価値を創造できる人材を育成します

目指すDX人材像

DXによる業務改善、サービス変革、企業価値向上の実現に向けて、
以下3つを結び付け、社内を主体的に動かし、成果を出すことのできる人材

- ①顧客・ユーザーの真のニーズ
- ②当社の持てる資源（業務知識・アイデア）
- ③デジタル技術

－ 人材育成STEP －

STEP3 戦略設計・組織変革を担う推進リーダー

DX戦略の策定、組織変革の設計、サービス再構築などを
牽引するリーダー層。経営視点と現場視点をつなぎ、デジ
タル変革の方向性を確立・加速する。

- ◆ 戦略設計／サービス再構築・経営視点のデジタル施策策定
- ◆ 他社連携・外部発信による旗振り
- ◆ 提供DXサービスのプロジェクトリーダー、社内DX推進リーダーの育成

STEP2 業務・データの変革実行人材

データ活用や自動化ツールを駆使し、部門を横断した業務プロセ
ス改善・改革を推進・実現する中核人材。技術と業務の橋渡し
役を担い、DX施策を具体化。

- ◆ 業務改善／自動化ツール（RPA、生成AI等）のスキル取得
- ◆ 部門横断プロジェクト参加・実践

STEP1 全社的なデジタルリテラシー基盤人材

今まで身に着けた基本的なIT知識を活かしつつ、DXの基本概念と
業務への活用方法を理解し、現場レベルでの業務改善を主体的に
進める人材層。全社の土台として、変革への意識と実践力を醸成。

- ◆ デジタルリテラシー・IT研修（eラーニング／動画）
- ◆ 業務プロセス×IT基礎理解

6. ITシステム・デジタル技術活用環境の整備

DX戦略を進めるために必要な、ITシステム・デジタル技術活用環境の整備に取り組んでいます



社内BPR・IT化の実施

- ✓ 3レス・フロー簡素化/
平明化・権限見直し
- ✓ ITツールによるBPR実現
BillOne/ContractOne/
CloudSign



セキュリティ・BCP の環境整備・強化

- ✓ IT資産管理の環境整備
SKYSEA ClientView



情報共有基盤の構築

- ✓ 情報共有基盤の整備
Microsoft 365

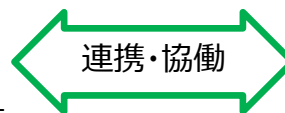
※ 3レスとは、ペーパーレス、印鑑レス、現物レスのことを指す

7. DX推進体制

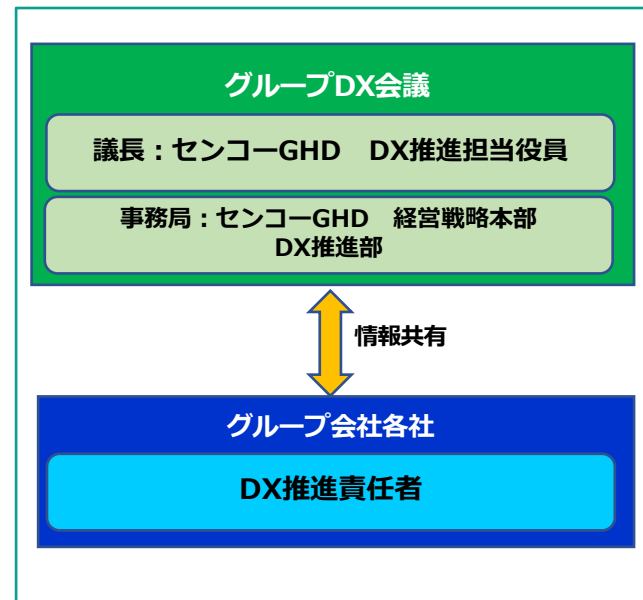
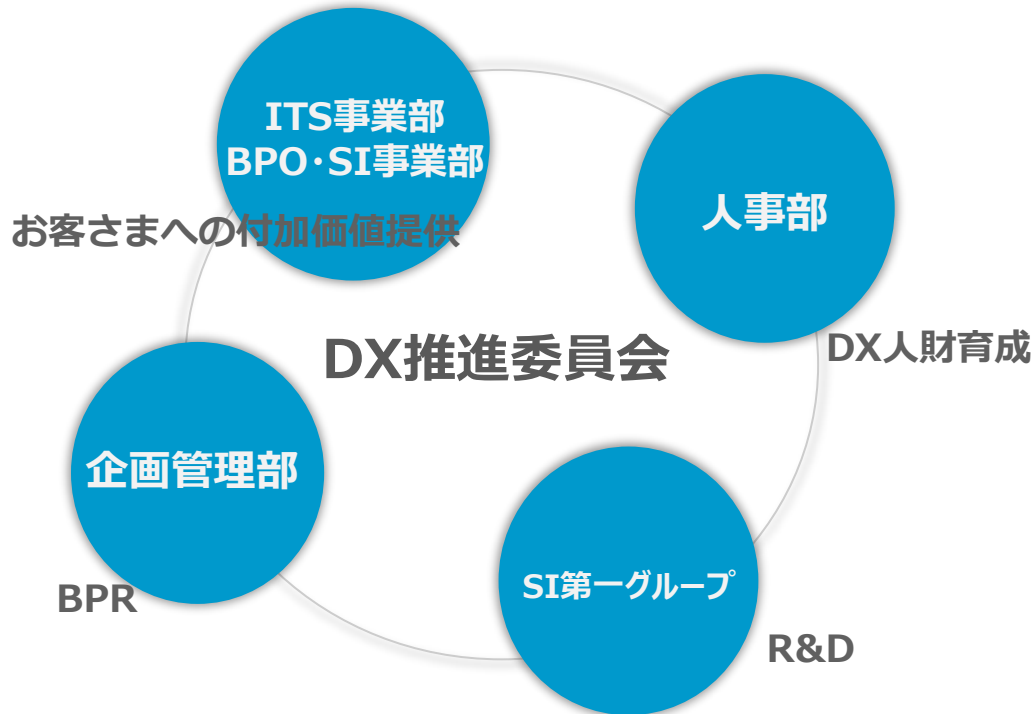
社内横断組織「DX推進委員会」が主体となり、DX推進を図ります
加えて、センコーグループホールディングスDX推進部とグループ横断の推進を連携します

社内体制

業務の効率化と新たな価値創出を目指すため、
各組織の強みを活かし、組織横断体制でDX推進を行います。



HD・グループ各社との連携
(HDDX推進部・グループDX会議)



DX推進担当役員とグループ各社DX推進責任者が参加し、グループ全体のDX戦略推進・経営管理機能強化・IT基盤整備等議論を定期的に開催

8. 成果指標

テーマ	DXで実現したいこと	主な定量指標
企業価値の向上	・ビジネス価値の創出 ・既存ビジネスの付加価値向上 ・新規顧客および新規案件の獲得	・新ソリューションの提案件数 ・新規顧客および案件獲得数
データ活用によるサービス変革	・デジタルデータの活用によるサービス競争力の強化 ・最適なサービスの提供	・データ活用による業務改善数 ・業務別、顧客別損益(売上・利益率)
デジタル技術による業務改善	・デジタル技術による生産性・品質の向上	・効率化による削減時間 ・品質に関するクレーム件数
3つの社内DX推進基盤	・DX人材の育成および確保 ・デジタル技術による社内BPR推進 ・R&Dラボ等による新技術等実用化研究	・各層DX研修の受講人数・受講数 ・BPR化社内システムの導入数 ・新技術活用のプロトタイプ化数